



# 「森林・林業・環境機械展示実演会」 レポート

“森林と機械と人の調和”をテーマに、  
愛媛県今治市で「2008 森林・林業・環境機械展示実演会」が  
2日間にわたり行われました。  
41社が約450機種を展示し、林業の先端技術が結集。  
会場で行われた実演会も注目を集めました。

## 約四五〇機種の 高性能林業機械を展示

「2008 森林・林業・環境機械展示実演会」が、一〇月二六、二七日の二日間にわたって愛媛県今治市で開催されました。第三二回全国育樹祭記念行事として行われた本イベントのテーマは「森林と機械と人の調和」。京都議定書におけるわが国の森林吸収目標を確保するためには平成一九年度からの六年間で三三〇万haの間伐が必要であり、より効率的



プロセッサによる枝払い・玉切りの実演会



高性能林業機械を展示（左：ハーベスタ 右：フォワーダ）



計量・安全・使いやすさを追求した最新式のチェーンソーも展示

会場では枝葉付木材や丸太を使い、プロセッサ（自走式の造材用機械）による造材やチェーンソーによる切断、木材の粉碎、フォワーダ（積載式集材車輻）での運搬、移動式製材機による製材などさまざまな実演が行われ、機械によっては参加者による試乗が行われました。また、高性能林業機械を使って安全に作業を行

うための講習会も開催。講習会ではスイングヤーダ（旋回ブーム式タワー付集材機）とフォワーダの実演が行われました。今年の展示会の傾向としては、一般的にスギより堅く枝への対応が意識され、プロセッサ・ハーベスタのデモンストレーションで使用される材料もヒノキが目立ちました。また、長伐期施業にシフトする森林が多くなりつつあることから、アタッチメントも比較的大型のものが展示されていました。

高性能林業機械の全国での保有台数は、近年、伸び率が増加する傾向にあります。増加台数（前年度比）ではフォワーダの増加が最も多く、次いでスイングヤーダが伸びている状況にあり、列状間伐、簡易作業路網による間伐作業の機械化が進んでいることを示していると言えます。森林・林業・環境機械の安全使用と普及の促進を図ることを目的として行われた今回の展示実演会。林業の活性化を図るためには高性能機械の効率的な導入、活用が必要であり、林野庁としては今後とも現場に役立つ林業技術の開発に取り組んでいきます。